

みどりの杜俳句会

秋冷の窓や戦時の童話読む

白石 礼子

山法師実の熟れ初むる色なりき

佐山ケサ子

百才を目指し黄菊を活けにけり

梅澤きくえ

杜の木の高さより散り葛の花

田村 好子

白菜の苗の根づきて空青し

高橋 ツ子

野分してカーテン左右に吹き乱る

木村 弘子

水鉢へ秋水流れめだかの朱

鈴木 啓子

杜の庭山法師の実熟れてゆく

西 ツル

秋茄子の夕餉を囲む笑顔かな

吉田 愛子

青ぶだう蔓より蔓へ房垂るる

飯野はつ志

くじゃく草手向けて祖母の新彼岸

松本 孚子

早朝の草の中より虫時雨

関口 侑子

雲千切れ満月近く星一つ

野口利江子

大鯉の口開け寄り来秋日和

岡部富美子

川ざらひ先づは河原の草刈りす

鯨井 和枝

庭の棚大き糸瓜の吊り下がる

今村千鶴子

煙立ち露点岩魚の炭火焼き

土屋 厚子

赤とんぼ森の広場に群れ真昼

大竹 裕也

屋台緞帳虫干すなり蔵の脇

岩崎 真人

山下り金木屋香の流れ来る

初雁 功子

斑雲かたまり月の雨来るか

山田 美子



人権シリーズ

397

『人権じゃんけんグーチョキパー』

何を出してもいいんだよ！』

これは私の子どもが小学生の頃に考えた人権標語です。

人権というと法律上での善し悪しが問題となりますが、もっと身近な地域のことや人間関係の中にたくさん問題が含まれております。

法律は人間のためのものであるから人間を中心として考えなければならぬと私の友人は言いました。私もそうは思いますが、その線引きをどうするか、血の通った運用とはどうするのかとても難しい問題です。

さて、今も学校では背の高さで並べせるのでしょうか。まさか成績順、生まれた順ではないでしょう。

昔あるグループで指導者という立場でいたとき、子供達に並んでもらうには縦の場合は班ごと学年順、横の場合は順番はなく一列に並んでもらいました。

背の高さというのは身体的特徴であるため、自分ではどうすることもできず、低さに劣等感を持つ子もいますし、また逆に背の高いことに劣等感を持つ子もいます。

これ(背の低い順に整列)を差別・いじめと判断する方(専門家)もいらつしやいます。私には、このことが小さなこととは思いませんが、簡単に断定することもできません。

ただ言えるのは、『一人一人をしつかりと見る。その子の立場・環境・事情を思う。見方は一方的ではいけない。』がとても大事ではないでしょうか。

いずれにしても、現代は人権意識を常に持つことが必須であると思います。

東秩父村議会議員 鷹野 明

東秩父村教育委員会開催のお知らせ

日時 11月24日(木) 午後1時30分～
場所 役場2階新会議室
問合せ 教育委員会事務局 ☎82-1230

